

令和元年度 練馬区立立野小学校 学校評価の報告

春暖の候、保護者、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年末に、皆様よりご協力いただきました令和元年度学校評価アンケートにつきまして、この度、学校関係者評価委員会を開催し、評価結果の取りまとめを行いましたので、ご報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員会について

- (1) 開催日時 令和2年2月18日(火) 午前10時30分～12時15分
- (2) 開催場所 本校応接室
- (3) 評価の流れ

- ① 学校が、令和元年度練馬区立立野小学校経営計画に基づき、教員が自ら行った評価・保護者アンケート・児童アンケートの結果を考察し、改善策を策定する。
- ② 結果と考察、改善策について、学校関係者評価委員会で検討する。

2 評価結果の取りまとめについて

- (1) 学校関係者評価委員会での検討を経た評価結果の取りまとめを公表する。
- (2) 練馬区教育委員会に報告する。
- (3) 次年度の本校教育課程編成に生かす。

3 評価者等について

- (1) 教 員
 - ① 実施時期 令和元年12月上旬実施(年間を通した評価)
 - ② 実施人数 18人(全学級担任。専科・養護教諭等)
 - ③ 方 法 質問紙法による
- (2) 保護者
 - ① 実施時期 令和元年12月上旬実施
 - ② 有効最多回答数 331人(在校児童の70.3%)
 - ③ 方 法 質問紙法による
- (3) 児 童
 - ① 実施時期 令和元年12月上旬実施
 - ② 実施人数 283人(3～6年生児童)
 - ③ 方 法 質問紙法による

4 評価項目について

評価は、4段階で行う。

1 =はい 2 =だいたい 3 =あまり 4 =ぜんぜん 5 =わからない

5 根拠となる資料

評価者	評価項目—1
教 員：相手を意識して、話を「よく聞く」ことができるように、学年・学級に応じた取組を行う。 保護者：話の聞き方をしっかり指導しながら授業に取り組んでいる。 児 童：私たちが見通しをもって取り組めるように、授業の計画について教えてくれる。	
教員 保護者 児童	<p>9割強の教員が、児童の実態に応じた取組と成果に手応えを感じている。公開授業等において、保護者の方の8割強が授業の取組を実感されている。9割強の児童が、教員の授業の進め方に肯定的である。更なる指導の工夫・改善に努める。</p>

評価者	評価項目—2																				
<p>教員：様々な表現方法を使って自分の考えを伝えられるように、学年・学級に応じた取組を行う。 保護者：授業の中に、話し合い活動の時間や考えを書いたりする時間を設け指導している。 児童：授業の中では、自分の考えや感想を書いたり、友達と話し合ったりする時間を設けてくれている。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue (%)</th> <th>Orange (%)</th> <th>Grey (%)</th> <th>Yellow (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>44%</td> <td>44%</td> <td>12%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>53%</td> <td>26%</td> <td>4%</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>80%</td> <td>18%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)	教員	44%	44%	12%	0%	保護者	53%	26%	4%	17%	児童	80%	18%	1%	0%	<p>8割強の教員は、自信をもって進めており、自己表現の場や交流活動に楽しんで取り組んでいると児童の評価も高い。保護者の2割弱が「わからない」と答えているので、公開日をはじめ、情報発信の場をさらに工夫・改善していく。</p>
評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)																	
教員	44%	44%	12%	0%																	
保護者	53%	26%	4%	17%																	
児童	80%	18%	1%	0%																	

評価者	評価項目—3																				
<p>教員：授業の始めにめあてを示し、終わりに振り返りを行い次時の授業に生かす。 保護者：学習のめあてを児童に示して授業を行い、めあてに沿った評価を行っている。 児童：私たちがめあてをもって学習に取り組めるようにしてくれている。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue (%)</th> <th>Orange (%)</th> <th>Grey (%)</th> <th>Yellow (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>38%</td> <td>50%</td> <td>6%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>47%</td> <td>28%</td> <td>2%</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>79%</td> <td>17%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)	教員	38%	50%	6%	6%	保護者	47%	28%	2%	23%	児童	79%	17%	3%	0%	<p>授業毎にねらいを明確にし、「めあて」として児童と教師が共有しながら授業を進められている。指導と評価の一体化については、校内研究等で精度を上げ、保護者との共有、教師の授業改善、児童の学習改善に生かしていけるよう努める。</p>
評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)																	
教員	38%	50%	6%	6%																	
保護者	47%	28%	2%	23%																	
児童	79%	17%	3%	0%																	

評価者	評価項目—4																				
<p>教員：挨拶と返事をする習慣を身に付けさせる。 保護者：児童が進んで挨拶をしたり、名前を呼ばれたらしっかり返事をするよう指導している。 児童：私たちが進んであいさつや返事をするように気を付けてくれている。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue (%)</th> <th>Orange (%)</th> <th>Grey (%)</th> <th>Yellow (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>50%</td> <td>38%</td> <td>6%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>61%</td> <td>23%</td> <td>3%</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>75%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)	教員	50%	38%	6%	6%	保護者	61%	23%	3%	13%	児童	75%	20%	5%	0%	<p>三者ともに概ね肯定的な評価となっている。さらに学校生活にとどまらず、日常生活においても挨拶や返事によって、周囲とよりよい関係を築くことが意識できるように、学校でも指導場面を工夫してメリハリのある取組を検討していく。</p>
評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)																	
教員	50%	38%	6%	6%																	
保護者	61%	23%	3%	13%																	
児童	75%	20%	5%	0%																	

評価者	評価項目—5																				
<p>教員：いじめの早期発見に向け、年3回の「学校生活アンケート」を実施し情報を学校全体で共有するとともに、組織的にその解決を図る。 保護者：児童が安心して学校生活を送れるように見守ってしてくれる。 児童：困ったことや心配なことがあると声をかけてくれたり、相談にのってくれたりする。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue (%)</th> <th>Orange (%)</th> <th>Grey (%)</th> <th>Yellow (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>72%</td> <td>16%</td> <td>6%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>64%</td> <td>27%</td> <td>3%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>53%</td> <td>31%</td> <td>12%</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)	教員	72%	16%	6%	6%	保護者	64%	27%	3%	4%	児童	53%	31%	12%	4%	<p>全児童が、安心して楽しい学校生活を送れるように、組織的な学校教育相談体制の充実に務めている。さらに関係機関との連携も密にし、いじめ0、不登校0を目指して、個々への対応に努めながら、児童・保護者・教員の思いの共有を図る。</p>
評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)																	
教員	72%	16%	6%	6%																	
保護者	64%	27%	3%	4%																	
児童	53%	31%	12%	4%																	

評価者	評価項目—6																				
<p>教員：年間を通じて読書活動を継続し、計画的に学校図書館を利用させる。 保護者：児童が進んで読書をしたり、学校図書館を利用したりするよう指導している。 児童：読書を勧めたり、学校図書館を利用しやすいようにしたりしてくれている。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>Blue (%)</th> <th>Orange (%)</th> <th>Grey (%)</th> <th>Yellow (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>38%</td> <td>22%</td> <td>34%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>40%</td> <td>29%</td> <td>11%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>49%</td> <td>31%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)	教員	38%	22%	34%	6%	保護者	40%	29%	11%	2%	児童	49%	31%	15%	5%	<p>学級数と学校図書館支援員の配置時間の関係で、時間割の編成を柔軟に考えなければならない。「読みママ」等の保護者の協力で感謝し、大切にしながら、図書館利用のより効果的な計画と朝読書等の充実を検討していく。</p>
評価者	Blue (%)	Orange (%)	Grey (%)	Yellow (%)																	
教員	38%	22%	34%	6%																	
保護者	40%	29%	11%	2%																	
児童	49%	31%	15%	5%																	

評価者	評価項目一 7												
教員：中休みは、全校児童を校庭に出し、様々な運動を経験させる。 保護者：児童が運動に親しむようにしている。 児童：中休みや昼休みは、外遊びができるように時間を確保してくれている。													
<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>34%</td> <td>60%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>61%</td> <td>28%</td> <td>3% 8%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>78%</td> <td>17%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	教員	34%	60%	6%	保護者	61%	28%	3% 8%	児童	78%	17%	5%	概ね肯定的な評価となっている。これまでの本校の特色ある活動を継続しつつ、さらに、運動の楽しさ、体を動かすことの心地よさを全児童が味わえるように体育の研究に努め、朝遊びの時間の確保等、工夫・改善に努める。
教員	34%	60%	6%										
保護者	61%	28%	3% 8%										
児童	78%	17%	5%										

評価者	評価項目一 8												
教員：学校日より、ホームページ等により児童の様子を家庭に知らせている。 保護者：学校日よりやホームページ等により、児童の様子等を知らせている。 児童：学校日よりやホームページ等により、私たちの様子をうちの人に知らせてくれている。													
<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>56%</td> <td>38%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>41%</td> <td>38%</td> <td>10% 5% 7%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>64%</td> <td>24%</td> <td>8% 3%</td> </tr> </table>	教員	56%	38%	6%	保護者	41%	38%	10% 5% 7%	児童	64%	24%	8% 3%	教員は、限られた時間と手段の中で、児童の様子を伝えようと努めてはきた。情報伝達の手段が減った事へのご意見も真摯に受け止め、個人情報の保護と情報発信のバランス、教員の働き方改革等を踏まえながら、情報発信の機会と内容の充実に今後も務める。
教員	56%	38%	6%										
保護者	41%	38%	10% 5% 7%										
児童	64%	24%	8% 3%										

評価者	評価項目一 9														
教員：専門家や地域人材をゲストティーチャーとして招いたり保護者ボランティアに授業の協力を依頼したりする。 保護者：ゲストティーチャーや学習ボランティア（保護者を含む）等、外部の方と連携して教育を進めている。 児童：私たちの学習のために、ゲストティーチャーやボランティアの方を呼んでくれる。															
<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>44%</td> <td>34%</td> <td>16%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>27%</td> <td>5%</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>72%</td> <td>22%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	教員	44%	34%	16%	6%	保護者	45%	27%	5%	21%	児童	72%	22%	5%	その都度、学習効果を考えて地域人材、保護者ボランティアの活用に努め、今年度も児童からは高い肯定的評価を得ている。学校は、授業改善に取り組む中で、さらなる人材の発掘と有効な活用、その取組についての情報発信についても検討していく。
教員	44%	34%	16%	6%											
保護者	45%	27%	5%	21%											
児童	72%	22%	5%												

6 保護者の皆様からの自由記述（同様の内容はまとめてあります）

（1）継続・発展を望む意見

- ・子供が楽しく学校に通っている。子供が学校に行くことが大好きになった。
- ・指導に熱心な先生方が多い。とても信頼できる先生。子供をよく見ていてくれる。
- ・働き方改革で、教員が余裕をもち元気なことが、子供の成長に効果があると思う。

（2）改善を望む意見・質問

	ご意見・ご質問	学校からの回答
学校経営 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・朝遊びを復活させてほしい。 ・もちつき等子供の楽しみが減っているのが残念。 ・積雪時に遊ばせてもらいたい。 ・時々でよいので、クラス遊び等に誘っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業時間内で週1回程度は確保 ・地域等の行事として継続 ・安全面と校庭の状況等を踏まえ実施 ・学級活動、学級経営の一環として検討
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内での発表等の活動を工夫してほしい。 ・近隣の学校に比べて授業時間数が少ないのでは。 ・体育の着替えへの配慮について。 ・パソコンや英語等の進んだ学習を増やしてほしい。 ・調理実習の食材の負担、準備について検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫・改善に向け研究・研修の実施 ・規定に基づく教育課程の編成と実施 ・発達段階に応じた配慮と柔軟な対応 ・区の教育環境を踏まえ、工夫を検討 ・負担の適正と公平性、事前説明を検討
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会への参加数が少なく内容等の改善を望む。 ・運動会のお弁当は、親と別にして子は教室にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回数は減へ、内容充実に努力 ・配慮は継続、暑さ対策としては検討

心の教育 人権教育	・友達に対して傷つける行動や言葉の指導を望む。	・改善に向けた、人権教育、道徳教育、家庭・地域教育の連携強化を検討
情報発信	・有事の際のメールやHPが脆弱なので不安。 ・学級通信を再開してほしい。 ・インフルエンザの人数を知らせてほしい。検査が変わる。	・全区的な課題に独自対策を検討 ・学級の実態に応じて柔軟に検討 ・感染拡大防止に有効の範囲で実施
施設・設備	・学校の門が開きっぱなしで気になる。 ・北校舎トイレの改修を早くしてほしい。 ・体育館の空調をつけてほしい。 ・東門沿い道路入口のバリケード設置について。 ・防犯カメラの設置について。 ・ガードレールの設置について。	・出入りする方への原則の徹底 ・改修時期については区が検討中 ・設置時期については区が検討中 ・通行止め不可、安全指導の徹底 ・区へ要望の際、具体提示が必要 ・警察、区へ要望の際、具体提示が必要
給食	・給食の写真をHPに載せてほしい。 ・給食のレシピをたくさん知りたい。	・試食会に加え、給食に関する情報発信の工夫・改善を検討
アンケート	・無記名のほうが応えやすい。	・記名でも忌憚のないご意見を
その他	・置き勉強でランドセルを軽くしてほしい。 ・公開時の保護者の声大きい。マナーを守ってほしい。 ・自転車への対策（スマホながら運転・スピード過多）	・学年の実態に応じて柔軟に対応 ・授業内容に応じた参観マナーの確認 ・親子で安全意識を高める場を検討

【補 足】

以下3点につきまして、補足させていただきます。

来年度より、**新学習指導要領の全面実施**に伴い、中学年の外国語活動及び、高学年の外国語科の授業時間数がそれぞれ年間20時間ずつ増加となります。これに伴い、授業時間数の確保が大きな課題となっておりまいますが、来年度につきましては暦の関係もあり、今年度よりも授業日数が6日増加すること、また、学級閉鎖や臨時休業等に備えた余剰時間に対する上限が示された経緯等があり、各学年の週時間数を今年度並みに抑えることができました。とはいえ、令和3年度以降につきましても、授業時間数の確保につきましては、引き続き検討していかなければならない課題であると考えております。

朝遊びにつきましては、昨年9月にお便りをお出したところですが、健康増進や登校への意欲の向上など、効果も期待できるものの、就業時間外における安全管理については、現行の教員の勤務体系では対応しきれない課題があります。そこで、朝遊びの意義と効果、児童の様子を踏まえた上で、毎週1回は、就業時間内に朝遊びができる日を確保できるよう計画を進めております。

餅つきにつきましては、土曜公開日に開催することで全校児童が体験・交流できる貴重な場ではございましたが、衛生管理の面や学校が準備に携わることに大きな課題があり、共催という形をとることを断念せざるを得ませんでした。来年度以降は、地域等の行事として開催され、学校もできる限りの協力をしてまいります。

【最後に】

今年度も、学校評価アンケートへのご協力をいただき誠にありがとうございました。教職員への労いの言葉も多くいただき、何よりの励ましとなりました。いただきましたご意見につきましては、主だったものを掲載し、回答させていただきました。スペースの関係で最低限度の表記となっておりますので、意味合いが十分には伝わらないところもあるかと存じますが、ご不明な点等は遠慮なく学校へお問い合わせください。

「学校は、地域とともに、子供のためにある」との教育理念に基づき、アンケートの結果のみならず、保護者、地域の皆様のお声を真摯に受け止め、工夫・改善に努めて参ります。今後も、立野の子らを真ん中にして、相互に手を携えながら教育活動の充実をと願っております。引き続き、ご理解とご協力の程をよろしくお願いいたします。

7 学校関係者評価委員の皆様からの自由意見（抜粋）

Q：いじめについては、児童の結果から安心しきっていないと思われる。また、6年生が卒業に向けて不安がないよう大人が気をつけていく必要がある。

A：いじめについては、道徳科を中心に学校生活全般を通して未然防止に努めていく。

Q：登下校時の児童の安全確保（交通事故、不審者等）が万全ではない。

A：登下校時の児童の安全確保については、保護者や地域の方の見守りを願います。

必ずしも、児童に付き添うということではなく家の前を出ていただいたり、挨拶等の声かけを行ったりしていただくことで、防犯や事故の抑止力になる。また、学校・保護者・地域が情報共有できる体制を整えていく。